

令和 **2** 年度

草津市の文化振興に関する意見書

重点プロジェクトについて

施策評価について

令和 **3** 年 **3** 月 草津市文化振興審議会

目次

はじめに	P.1
重点プロジェクトについて	P.2
・次世代文化体験プロジェクト〔準備〕	P.3
・13万人の文化プロジェクト〔展開〕	P.7
・ふるさと草津の心プロジェクト〔研究〕	P.10
施策評価について	P.13
・成果指標の見直しについて	P.13
・市美術展覧会の見直しについて	P.14
参考資料	P.15
・審議経過	P.15
・審議会委員名簿	P.16

はじめに

草津市では、文化振興の理念や施策を具体的に明文化し、市民と共有することで、より一層の文化振興を図るため、平成 29 年 7 月 1 日に草津市文化振興条例を施行されました。同条例第 6 条第 1 項では、文化振興計画の策定について定められており、文化振興施策を総合的かつ計画的に推進し、誰もが文化に親しめる環境を整え、さらには文化の力によって都市の魅力を高めることを目的として、平成 30 年 3 月には同計画を策定されています。

一方で、国においては、平成 31 年 3 月に障害者による文化芸術活動の推進に関する基本的な計画を策定し、令和 2 年 3 月には滋賀県においても滋賀県障害者文化芸術活動推進計画を策定され、文化とその関連分

野との有機的な連携への機運が一層高まっており、自治体の文化政策を取り巻く環境は著しく変化しております。

今年度は、新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい、当初の予定通りに計画を推進することが困難であったかと思いますが、そうした中でも、同感染症対策を施しながら、重点プロジェクトを中心に、文化振興の新たな展開に向け、着実に歩みを進めてこられました。

この度、当審議会としての一年間の議論の成果を意見書としてまとめましたので、今後の施策展開に反映いただけることを期待申し上げます。

草津市文化振興審議会

会長 中川 幾郎

重点プロジェクトについて

草津市文化振興計画では、文化が生み出す価値を教育、子育て、健康、福祉、産業、観光、まちづくり、環境をはじめとした様々な分野に結び付け、市の関連部局と企業、大学、文化団体等の多様な市民が連携しながら、文化を基軸とした複合的に効果のある事業を研究、展開する事業を重点プロジェクトとして位置付けています。

これまで2年間かけて準備を整えてきた「13万人の文化プロジェクト」は、展開の段階に進み、これまでの議論の成果を発揮する局面に移ってまいりました。また、今年度より新たに「ふるさと草津の心プロジェクト」の研究がスタートし、並行して3つの重点プロジェクトに取り組んでいただきました。

まず、「次世代文化体験プロジェクト」については、次年度が展開の年となりますが、現段階では新型コロナウイルス感染症の収束が見込めず、3密を回避することが困難な事業が大半であるものの、パッケージがほぼ完成していることから、予定通り可能な範囲で展開に取り組んでいただきたいと思います。

次に、「13万人の文化プロジェクト」の展開については、同感染症の影響により、一部中止になる事業もありましたが、そうした状況下においても対策を施しながら実施に向けて取り組まれたことは評価できます。引き続き、各事業をブラッシュアップしながら取り組んでいただきたいと思います。

最後に、「ふるさと草津の心プロジェクト」については、本来であれば次年度は準備の年となりますが、当初実施予定であったプログラムの殆どが中止となったことにより研究を十分に行えなかったことから、引き続き研究の年としていただきたいと思います。

なお、草津市においては、プロデューサー、コーディネーターの育成と活用を計画に位置付けられておりますので、今後、アートマネジメント研修の受講および実施ならびに相談機能の充実にに向けた取組の検討をお願いいたします。

▼実施スケジュール

	H30	R1	R2	R3	R4	R5
次世代文化体験プロジェクト		研究	準備	展開		
13万人の文化プロジェクト	研究	準備	展開			
ふるさと草津の心プロジェクト			研究	準備	展開	

次世代文化体験プロジェクト（準備）

Ⅰ. 次世代文化体験プロジェクト情報発信事業（新規）

（１）事業目的

草津市文化振興計画に位置付ける次世代文化体験プロジェクトをオール草津で推進するため、民間が主催する文化事業の情報発信をサポートし、草津の文化を担う次世代が多様な文化に触れることができる機会の充実を図る。

（２）実施主体

主催：草津市教育委員会（生涯学習課）

（３）事業概要

□次世代文化体験プロジェクト情報発信事業

草津市教育委員会が後援、共催する事業のうち、次世代文化体験プロジェクトの目的に合致するものについて、市のホームページに特設ページを作成し、該当事業を一覧で掲載する。なお、掲載する情報は下記のとおりとする。

（１）事業名

（２）開催日時

（３）開催場所

（４）主催者名

（５）連絡先

（６）対象事業のホームページアドレス

（７）対象事業のチラシ

（４）主な対象者

草津市教育委員会が後援、共催する事業の主催者

（５）検証

広報活動に苦慮している団体があり、当事業の評価は概ね好評であった。運用を始めてから日が浅く、本格的な検証はこれからである。

（６）方向性

将来的には他の重点プロジェクトでの運用も検討できればと考える。

（７）委員の意見

特になし

II. アートフェスタくさつ（拡大）

（1）事業目的

多様な人との関わりの中で、子どもや若者が気軽にアートに親しみ、人と文化に出会い交流する機会を創出することで、市の文化を担う次世代の育成を行う。

（2）実施主体

主 催：イオンモール草津、草津市教育委員会（生涯学習課）

受託者：草津市 21 世紀文化芸術推進協議会、草津まちづくり株式会社

事業協力：市民コーディネーター、アーティスト

（3）事業概要

わくわく体験ひろば、クリエイターズマーケット、ロジウラテラス〔中止〕

オンラインでのワークショップ等の検討を行ったが、事業の目的である「交流」を十分に担保できないため、実行委員会にて中止を決定。

星降る映画館〔10月17日（土）／草津アミカホール／参加者：136名〕

新型コロナウイルス対策のため、草津アミカホールにて規模を縮小し実施。

イオンモール草津との連携

・ビワアートコレクション〔毎月1回開催／イオンモール草津／参加者：延べ297名 ※1月時点〕

・ビワアートフェス〔10月3日（土）～11日（日）／イオンモール草津／参加者：延べ430名〕

昨年度より実施している「ビワアートコレクション」「ビワアートフェス」は、規模を縮小し開催。新たに、コロナ禍における家庭での創作活動を応援するため、4コマ絵本コンテストを開催。

（4）主な対象者

就学前～小学生

（5）検証

コロナ禍における交流事業のあり方について研究を行う機会となったが、目的としている効果を得ることが難しく、今後も同じ状況が続くようであれば、事業の転換を検討する必要がある。

（6）方向性

イオンモール草津で開催している「ビワアートコレクション」「ビワアートフェス」等との連動性を高め、年間を通じて文化を体験できる機会を創出したい。

（7）委員の意見

特になし

Ⅲ.学校連携プログラム（新規）

（１）事業目的

子ども達が分け隔てなく文化に親しむ機会を設けることで、子ども達の観察力、想像力、表現力等を養い、大人になっても文化に親しむ基盤づくりを行うとともに、市民としての誇りやアイデンティティーの礎となるような文化体験の機会を創出する。

（２）実施主体

主催：（公財）草津市コミュニティ事業団
事業協力：草津市教育委員会（生涯学習課）

（３）事業概要

□こころの劇場〔中止〕

草津クレアホールで開催する劇団四季のミュージカルに小学生を招待。遠方の学校には、バスを手配し移動支援を行い参加しやすい環境を作る。

（４）主な対象者

市内全小学５年生

（５）検証

新型コロナウイルス感染症の影響により中止のため未検証

（６）方向性

可能な限り多くの子どもが鑑賞できるよう、各学校への周知や遠方の学校への移動支援に取り組む。

（７）委員の意見

魅力的な事業であるので、バスの手配等も含めて続けていただきたい。

IV. ひとり親家庭へのコンサートチケットプレゼント（新規）

（１）事業目的

企業との連携により、子ども達とその家族が等しく文化に触れることができる機会を提供する。

（２）実施主体

主催：（公財）草津市コミュニティ事業団、草津市教育委員会（生涯学習課）

（３）事業概要

□みんなの音楽会〔12月5日（土）／草津クレアホール／参加者10組22名〕
抽選で、ひとり親家庭の家族を草津クレアホールのクリスマスコンサートに招待。来年度の本格的な展開に向けて制度設計を行った。

（４）主な対象者

市内のひとり親家庭の子どもおよびその保護者

（５）検証

通知の発送作業の都合で直前の募集となったにも関わらず、総応募数は14組（4組落選）とニーズの高さを感じた。今回は、クラシックコンサートの招待であったが、他の選択肢があれば、需要は増えると考ええる。

（６）方向性

クリスマスシーズンにこだわらず、可能な限り多くの選択肢を提示できるよう制度設計を行う。

（７）委員の意見

- ・寄付をしてくれる企業に喜ばれるようなインセンティブを考えること。
- ・年間を通じて招待できる制度になるよう検討すること。

13万人の文化プロジェクト（展開）

1. まちなかオンライン&ルーフトップコンサート（新規）

（1）事業目的

仕事や勉強等に忙しく、文化に触れる機会が少ない人や障害者でも、気軽にコンサート等を鑑賞することができる機会を提供することで誰もが文化に触れることができる機会の充実を図る。

（2）実施主体

主催：滋賀県、文化芸術×共生社会プロジェクト実行委員会、
（公財）草津市コミュニティ事業団、草津市（障害福祉課）、草津市教育委員会（生涯学習課）

（3）事業概要

□まちなかオンライン&ルーフトップコンサート

〔11月13日（金）／近鉄百貨店屋上駐車場／参加者：延べ575名〕

事業趣旨のアナウンス、看護師の配置、手話通訳の配置、座席配置、休憩室の準備、演目の事前配布等を行い、安心して来場、リラックスして鑑賞いただける仕組みづくりを行う他、参加しやすいチラシ作り、事業の周知に取り組んだ。

また、会場に来場いただけない方に向けてYouTubeのライブ配信および草津駅周辺にて音源の放送を行った。

（4）主な対象者

障害者、社会人、学生

（5）検証

会場として、近鉄百貨店の屋上駐車場を使用し、新たな連携先の開拓を行うことができた。YouTube等新たなツールを活用する契機となり、障害者など現地に赴くことが出来ない方にも鑑賞いただける環境を作ることができ、コロナ禍ならではの事業とすることができた。

（6）方向性

県が設置した文化芸術×共生社会プロジェクトの委託を受け実施。来年度も、引き続き実施できるよう調整を行う。

（7）委員の意見

特になし

II. おでかけコンサート（新規）

（１）事業目的

様々な背景を理由に、普段、文化に触れることが困難な障害者を対象とし、文化活動の機会を提供することで誰もが文化に触れることができる機会の充実を図る。

（２）実施主体

主催：滋賀県、文化芸術×共生社会プロジェクト実行委員会、
（公財）草津市コミュニティ事業団、草津市（障害福祉課）、草津市教育委員会（生涯学習課）

（３）事業概要

おでかけコンサート〔中止〕

長距離の移動が困難な方でも参加できる地域の施設や、通いなれた場所に出向き、社会包摂型のアウトリーチを展開。アーティストや参加者同士の関わりの中で、コミュニケーションや想像力を育む参加型のプログラムを実施する。

（４）主な対象者

障害者

（５）検証

新型コロナウイルス感染症の影響により中止のため未検証

（６）方向性

県が設置した文化芸術×共生社会プロジェクトの委託を受け実施予定であったが中止となった。来年度も、引き続き実施できるよう調整を行う。

（７）委員の意見

特になし

Ⅲ. 障害者等に配慮した文化ホールでのコンサート（新規）

（１）事業目的

様々な背景を理由に、普段、文化に触れることが困難な障害者を対象とし、文化活動の機会を提供することで誰もが文化に触れることができる機会の充実を図る。

（２）実施主体

主催：滋賀県、文化芸術×共生社会プロジェクト実行委員会、
（公財）草津市コミュニティ事業団、草津市（障害福祉課）、草津市教育委員会（生涯学習課）

（３）事業概要

□みんなともだちコンサート〔2月28日（日）／草津クレアホール／参加者480名〕
事業趣旨のアナウンス、看護師の配置、手話通訳・要約筆記の配置、車椅子席の増席、休憩室の準備、演目の事前配布等を行い、安心して来場、リラックスして鑑賞いただける仕組みづくりを行う他、参加しやすいチラシ作り、事業の周知に取り組む。
また、聞きなじみのある楽曲を演奏することで来場へのハードルを下げ、参加型のプログラムを実施することで、再度、文化ホールに来場いただくきっかけづくりを行う。

（４）主な対象者

障害者

（５）検証

来場者は、乳幼児～高齢者までバランスの良い年齢構成となっていた。障害者の来場も多数あり、障害の有無等に関わらず、誰もが同じ空間で文化に親しむことができる環境を創出することができた。

（６）方向性

県が設置した文化芸術×共生社会プロジェクトの委託を受け実施。来年度も、引き続き実施できるよう調整を行う。

（７）委員の意見

特になし

※Ⅳ. ひとり親家庭へのコンサートチケットプレゼントは、次世代文化体験プロジェクト

の再掲

ふるさと草津の心プロジェクト（研究）

Ⅰ. 草津市×立命館大学 環びわ湖大学・地域コンソーシアム（新規）

（１）事業目的

立命館大学や地域住民とともに、歴史資産を対象とした調査を実施し、「草津の魅力」を再発見し、協働しながら議論・提案を行い、本市の歴史資産の総合的な保存・活用方法を検討する。

（２）実施主体

主催：立命館大学、草津市教育委員会（歴史文化財課）

（３）事業概要

□街道歴史散策 AR アプリの作成

「草津の魅力」を再発見！～草津市内に点在する歴史資産を繋ぐ保存・活用方法の提案～」と題し、草津の歴史資産の活用を立命館大学と連携し検討。街道を散策する AR アプリの作成に取り組んだ。

（４）主な対象者

市民全般、観光客

（５）検証

試作品の完成を待っている状態であるが、歴史資産の活用に向け、大学との連携を進めることができ、今後の展開に期待できる取り組みとすることができた。

（６）方向性

今年度が２カ年事業の最終年度であり、活用法等の方針については、立命館大学と協議を行い検討する。

（７）委員の意見

特になし

II. おうみ狂言図鑑（新規）

（1）事業目的

滋賀を題材にした「新作狂言」を滋賀県オリジナルの狂言シリーズとして展開することで、現代にも通じる狂言の「風刺的な笑い」と日本の歴史の中で様々な文化を育んできた「近江」の魅力を発信する。

（2）実施主体

主催：（公財）びわ湖芸術文化財団、（公財）草津市コミュニティ事業団

（3）事業概要

□おうみ狂言図鑑〔2月13日（土）／草津アマカホール／参加者：190名〕
びわこホールの指定管理者である（公財）びわ湖芸術文化財団との連携のもと、大蔵流狂言の茂山家の協力を得て、「いそがばまわれ」の語源となった草津を舞台とした新作狂言を制作し、草津アマカホールにて上演。

（4）主な対象者

市民全般

（5）検証

（公財）びわ湖芸術文化財団を始め、多様な主体との連携により、草津の魅力を発信できた。

（6）方向性

今後も草津の文化的資産を活用した舞台芸術の制作を行い、市内外に草津の魅力をアピールする。

（7）委員の意見

「いそがばまわれ」をふるさとの話として、子ども達に知ってほしい。学校との連携を検討いただきたい。

Ⅲ. 草津市版ヘルスツーリズム実証事業（新規）

（１）事業目的

本市の観光活性化に向け、既存の観光資源だけでなく、新たな地域資源の掘り起こし・磨き上げを行い、着地型の観光を推進し、交流人口の増加や地域経済の活性化を目指す。

（２）実施主体

主催：草津市観光物産協会

（３）事業概要

□たび×たび草津（中止）

今までとは違った切り口で「特別な体験」を提供することを目的に地元の事業者と一丸となって「たび×たび草津」でしか体験できない旅行商品の造成・販売を行う。

（４）主な対象者

アクティブシニア（女性）、ファミリー層

（５）検証

2月～3月に実施予定であったが、緊急事態宣言の延長を受け、来年度に延期予定のため未検証

（６）方向性

継続的に実施することで事業者との関係性を深めつつ、固定客を創出する。

また、ウィズコロナ禍においても実施可能な観光事業となるよう旅行商品の造成、販売を行う。

（７）委員の意見

特になし

施策評価について

草津市文化振興計画では、基本施策ごとに計画の進捗を評価するための成果指標を設定していますが、成果指標設定時と現在の実績が乖離している項目や成果指標として不安定な項目があり、計画の中間見直しのタイミング等で見直す必要があると考えます。

それまでの間、見直しを検討すべき指標については、補助指標を設定し、本指標と並行して運用することで、有効性を検証できればと思います。

下記に補助指標の例を示しますので、御検討いただきますようお願いいたします。

また、市美術展覧会の見直しについては、これまで進めてきた議論により一定の方向性を示しましたので、本審議会での審議を終了するものとし、実行委員会と見直しに向けた取組みを進めていただきたいと思います。

成果指標の見直しについて

(補助指標の例)

協働による文化活動の推進

- ・市が協働に取り組んだ団体数

文化施設の活用及び充実

- ・利用者アンケートの満足度

文化活動を担う人材の育成および活用

- ・市民プロデューサー、コーディネーターを活用した事業数

子どもおよび若者の文化活動の充実

- ・市美術展覧会への若者の参加割合

高齢者、障害者等の文化活動の充実

- ・障害者福祉施設等へのアウトリーチ数

□文化によるまちづくりの推進

- ・ 劇場に招待した市民の数 ※市民文化
- ・ 観光入込客数 ※都市文化

□文化を通じた出会いおよび交流の創出

- ・ ワークショップ参加者数

市美術展覧会の見直しについて

□部門の新設

- ・ イラスト部門の新設に向けて取り組みを進めること。
- ・ 印刷物になるチャンスが設けられるような仕組みがあれば、出品に意欲が出るので、副賞等検討すること。
- ・ 現在の展覧会は、大きい規格の絵画しか出品できないので、若年層が応募しやすいよう小さい規格でも出品できるよう検討すること。
- ・ 将来的には、映像作品の出品も可能となるよう検討すること。

□草津市の独自性（若者の出品、来場を促す仕組みづくり）

- ・ 夜間開場について検討すること。
- ・ 若者を対象とした賞を創設するのであれば、何歳までか定義を定めターゲットを絞ること。
- ・ 包括協定を締結している大学等との連携による出品促進を行うこと。

□草津市の独自性（市民参加型の展覧会とする仕組みづくり）

- ・ 来場者投票の導入については、知り合いに投票するのではなく、その作品の良さに投票できるような仕組みとすること。

参考資料

審議経過

	開催日／会場	主な審議事項
第1回	令和2年7月17日（金） 市役所6階教育委員会室	(1) 文化事業調査結果 (2) 各基本施策の成果指標 (3) 重点プロジェクトの進捗
第2回	令和2年8月28日（金） 市役所6階教育委員会室	(1) 草津市美術展覧会の見直し (2) 成果指標の見直し方針
第3回	令和3年1月15日（金） 市役所4階行政員会室	(1) 重点プロジェクトの進捗 (2) 成果指標の見直し方針
第4回	令和3年3月8日（月） 書面審議	(1) 令和2年度草津市の文化振興に関する意見書

審議会委員名簿

区分	氏名	備考
学識経験を 有する者	中川 幾郎○	帝塚山大学
	松本 茂章●	静岡文化芸術大学
関係する団体 から選出された者	五十川 伸矢	草津市文化財保護審議会
	澤 孝子	(公財) 草津市コミュニティ事業団
	園田 実乗	(特非) 草津市中心身障害児者連絡協議会
	寺村 裕加子	Biwartist
	中村 徹	草津市21世紀文化芸術推進協議会
	成田 陽子	草津市教科等部会別研修図工・美術部会
公募市民	安積 由里子	公募市民
	宇野 裕美	公募市民

※○は会長、●は副会長